

令和元年度

学生によるオレンジリボン運動

関西学院大学 実施報告書



実施主体 馬場ゼミ

実施内容 大学生にできる児童虐待防止策を考える

①事前に取り組んだ内容

活動へ向けてまず、ゼミ生一人一人が児童虐待に関する基礎知識を増やした。具体的には、先生が用意してくれた本の中から一冊を選び、章ごとに分担し読み込み、発表し合うことで情報を共有した。大学の講義だけでは足りなかった知識を、専門書を通して補うことができた。そして、「大学生の私たちにできる児童虐待防止策はないだろうか？」という発案から、オレンジリボン運動に参加することを決めた。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

私たちと同じ学部である人間福祉学部の学生と休み時間にコンタクトをとり、この発案を投げかけた。ただ投げかけるだけではなく、児童虐待を身近に感じる事例を提示し、自分ならどのような行動がとれるか？ということを中心に考えてもらった。そして、アイデアがあればメッセージカードに書きおさめてもらい、ゼミに持ち帰った。約 200 枚のカードを集めることができた。アイデアとして多かったものは、「自分の住む地域の子どもたちに目を向ける」「普段と違う様子の子どもがいたら話しかける」「まず自分が児童虐待に関する知識を増やす」などがあつた。それらのアイデアをゼミ内で共有・考察し、今日からでもできる児童虐待防止策を具体化させた。それらをソーシャルワーク論という人間福祉学部の学生が多く受講する講義内で発表した。中には、メッセージカードを書いてくれた学生も多くいたため、自分とは違うアイデアに触れることができる時間になったと思う。

③オレンジリボン運動を終えて…

学生である私たちは、児童虐待を他人事に思いがちである。親になった経験がないため、そのように思うのは仕方がないのかもしれない。しかし、今回の活動を通して、「児童虐待を生み出している

写真

活動内容や考察した具体策を講義内で発表したと先述したが、その教室の前の廊下に集めたメッセージカードを掲示した。特にアイデアとして多かった「地域環境」「報告・相談」「気づき」に関連するカードの一部を写真に収め

